



1. ディレクトフォース

(1)外務省でTTP等の交渉やODA業務を担当した後、海洋生物に関わるプロジェクトに参加している村上さんよりお話を頂いた。村上さんは昔、夢を諦めたことがあったとおっしゃっていた。その後悔はまだ胸の内にあるようで、本当にやりたいことを求める強さはとても大切であることを教えてくださった。

また、外務省で働いた経験をふまえ、英語力の重要性を話してくださった。まず英語で話す内容がなければ意味がないので、英語での専門性を高めることが大切だそうだ。次に、習得した英語を実際に使うことが出来なければ役に立たない、何より楽しくないので、英語を使えるようになるべきだそうだ。高校の勉強で扱う英語はパズルのように当てはめれば「答え」が見つかる。だが、その力だけでは足りない。英語を使えるようになるためにも、英文を自ら考えて書くなど自分なりの工夫をして英語に触れていくと良いとのことだ。

そして、高校の後の世界について。大学、そして社会へと進めば「答え」がないことなんて当たり前だそうだ。その一例として「機会の平等、結果の平等はどっちが大切か。」という題が挙げられた。だが、いろんなケースが生まれて、答えは出ない。では、そもそも「平等とは大切なのか。」という題に移った。すると、他人と比較する考えがその言葉の背景にあり、自分が決められないこと(性別や身長等)で差別を受けるのは正義に反するのでは

ないか、だったら平等は保障されなくても良いのかもしれない、だがそれは個人の尊厳の維持になるのか…。このように様々な論に繋がっていった。

村上さんはこの例を通して、このように論を発展させ、深めていくために必要なことを伝えてくださった。それは、自分の意見をしっかり持つこと、先進国と発展途上国のどちらだろうがみんなほとんど同じだからみんなのその共通点を探そうとすること、違いばかりにとらわれないこと、答えが出ないときに「そもそも論」に戻ってみることである。そして最後に、プロジェクトの研究者として、海のありがたさを自然の原理とともに丁寧に教えてくださった。

(2)銀行で国内・国際融資などに従事し、投信会社の社長・会長を経て、会社の特別顧問や大学講師などを勤めている、長年海外生活を経験した矢ヶ崎さんよりお話を頂いた。矢ヶ崎さんは資料とともに銀行や会社の在り方、リーダー像、海外生活、実際に銀行で使う様々な資料から読み取れる利息等の重要性、成功談や失敗談、トランプさん、私たちが大切にすべき心構えなどを伝えてくださった。

まず、銀行員としての喜びは、お金を通じて人のためになったことだとおっしゃった。銀行員は世界中をまたにかけて走り回っているが、黒子として人のために活躍する。だが、そのためにはお金を人のために上手に使うことが必要とのこと。だが、お金に使われることや、黒子としての銀行が目立ってしまうこと、貯金だけが正しいとすることはあってはならない。

次に、国際的な会社像について。そこで注意すべきなのは、**international** では「国境がある」と捉え、**global** では「国境への意識はない」と捉えることだ。会社に国境はない。即ち、いろいろな人が当たり前にとくさんいて、**global** なのだ。そして、やはりその中で共通するのは英語を使えるということ。ただし、そこでの英語は結論や要点をおさえるものであればよい。あまり英語が上手くないとしてもポイントを掴んでさえいれば、後に慣れてくるので良いそうだ。

だが、その会社内でも第二次世界大戦などの話題には特に注意しなければならない。そして、そのような注意すべき歴史的背景や異なる価値観が多くある社内で求められるリーダー。それは、「社員にどれだけ共通の目的を持たせられるか」や「しっかり自分が責任を取るとどれだけ社員に示せるか」によって決まる。信頼をおけて、ついていこうとみんなが思える人こそ、この2点で長けているとのこと。

最後に、海外の友人の存在についてと私たちへの言葉。孫のいる歳のような友人が矢ヶ崎さんのためにわざわざ海外から来てくれることがあったそうだ。そんな存在が世界にいるあたたかさは表現しきれない。そして、物事はみんな「相対」であるから「絶対」という言葉は使ってはいけないこと、現実と向き合うようにすること、自分と違うものをなんで違うか知りたくなる心を大切にすること等、私たちへ深く様々な言葉を贈ってくださった。

(3)航空会社に従事した後、IT業界の多くの会社で社長等として務めていた青木さんよりお話を頂いた。青木さんは将来の限りない世界の可能性を強く私たちへ伝えてくださった。私たちが今まで生きてきた15年は本当にまだ短く、周りに知っている人ばかりの狭い世界だとおっしゃった。そこで今後社会に出る、ということは「大海原に出航する」ことと同じだと教えてくださった。大海原に出ればいろんなことが起きる。それは、穏やかな波や荒波がある様に、良いことも悪いこともある。だが、私たちはそれらを乗り越え、目的を追求し続けなければならない。だからこそ、今の私たちはその大海原を予測していくための勉強をしていかなければならないとのこと。グローバル化だ、少子高齢化だ、ICTの発達だという様な、飛び回る情報に振り回されてはいけない。社会の変化に対応しつつ、事実を踏まえて次を想像していくことが大切である。また、高校で以下の3つに取り組むべきとのこと。

①夢中になれる何かを見つけ、一生懸命取り組むこと

夢中になれるものに取り組み続ける内に自らの長所や短所と向き合うことが出来る。そして、本気だからこそ成功した時の喜びは大きく、失敗をした時は悔しい。そこから学びが生まれる。その体験をするべき。

②五感体験を山ほどすること

テレビなどはスイッチ一つで同じ映像を何度も見ることが出来てしまったり、見たくなければ飛ばしてしまったりも出来る。だが、それに慣れてはいけない。それは現実を見ず、逃げる癖を生んでしまう。好きな都合の良いところだけを見てはいけない。五感体験を豊富にして、その時その場でしか感じられないものを五感できちんと味わい、自らの力で現実と向き合い、直視していくようにすべき。

③「why」を追及して「how」を創造すること

「why」と問われたとき、「誰かが言ったから。」「何かに書いてあったから。」と答えてはいけない。その答えの時点で、自分で考える力を失っている。考えず何もしないことが一番怖い。なぜそうなるのかを考えることが何かしらの答えに着実に近づくはず。自分でしっかり考えることが大切である。年をとっても大切にすべき。

また、高校の後もやるべきことの中から夢中になるものを見つけるべきだそう。夢中になることは努力し続けるという行動にも表れる。だが、その努力の結果にとらわれ過ぎてはいけない。結果は環境の影響も受けるためだ。一方で、努力は周りの影響がない。よって、限界に等しい努力をした上で、結果が悪いのであればそれを悔しく思っても後悔は

しない。きちんと結果を認められるのだ。だからこそ、後悔のないように努力していくべき。最後に、自分がしたいという意見を持つことが常に重要とされていく、とおっしゃった。それは「事実を受け止め、自分で決め、自分で行動する、そして自分で結果の責任をとる」という力に繋がり、その力は今後の私たちの生きる社会で必要とされる、そう力強く教えてくださった。

(1)(2)(3) 3人の講師の方々のお話を聞いて

東京に着いてすぐに始まった、このディレクトフォースで私は感銘を受けた。言葉で表現しきれないほど幅広い世界観を持ち、一つの物事に対しても多様な見方が出来る方々がそこにはたくさんいらっしゃった。私たち高校生が知らない、もっと大きな世界を常に見つめている人がたくさんいるのだと思った。その方々の話している姿からは、これまで様々な経験をしているからこそ生まれる様な言葉の重みや、聞いている私たちもわくわくさせるような世界の広がりなどを感じた。本当に全身でその熱や勢いを感じることができ、心から感動していた。

(1)村上さんのお話では、特に「答え」のない問いについて深く考えさせられた。「平等」という言葉を今まで自分はどうとらえていたのか、自分でもよく分かっていないが、なんとなく大切にすべきことなのかなあ、と考えていたのだと思う。だが、(1)での「そもそも論」などを聞いて、そんな考え方があるのかと衝撃を受けた。深く考えれば考えるほど、「平等」という概念が自分の中で揺らぐ。もし、この話を友人や異国の人に持ち掛けたらどんな答えが返ってくるのか、自分以外の考え方に対して知的好奇心が唸る。それと同時に、「答え」がないからこそ、この問いは難しくも人と「答え」を模索し、問いについて深め合う面白さ感じられるのではないかと思う。

(2)矢ヶ崎さんのお話では、私の中での銀行員に対する見方が一変した。偏見であるが、矢ヶ崎さんのお話を聞くまで、銀行員はあるドラマのようなギスギスして御堅く静かなイメージが大きかった。だが、世界をまたにかけて走り回っているが、その存在は黒子。さらに、世界を左右するお金を通して人々を支えているのだと聞いて、スリルがあって深い仕事だと思った。また、自分は海外留学を考えていて海外での生活に興味を持っていたので、矢ヶ崎さんの話を聞いて、さらに異国に対する意欲も湧いた。そして、リーダー像について。これもまたとても深い話であった。国境のない会社において、(2)の2点をこなし、リーダーとして務める人は本当に素晴らしいと思う。そのような方に憧れを抱くとともに、自分もそんな人になりたいと思う。だからこそ、日々の生活でこの2点を意識してみたいと思う。

(3)青木さんのお話では、今私たちが勉強している意味のようなものを教えてくださったよ

うに感じる。その勉強とは、日々学校で励んでいることに加え、こうやって多くの人からたくさん学びを得ること等の全てを指すと思う。今すべき勉強は「大海原に出ていくための準備」と聞いて、私は今していることの重要性を強く感じた。将来が、大海原が、どんなものか分からないが、今ここでしていることがいつかきっと繋がり活かすことができる。そう考えると、すごくわくわくするし、悔いのないよう、今を一生懸命に生きることが大切だと思える。そのためにも(3)の高校ですべき3点に取り組んで行きたいと思う。特に私には夢中になるものとして硬式テニスがあるので、熱をより注いでいきたいと思う。また、青木さんのおっしゃっていた「事実を受け止め、自分で決め、自分で行動する、そして自分で結果の責任をとる」という力に強く惹かれた。これは言葉で書けば数行の短い簡単なことのように見える。だが、これはすごく難しいことで、これを当たり前に行えることがどれだけ偉大なことかをディレクトフォース後もずっと考え続けていた。特に、最後の「自分で結果の責任をとる」というのはそれまでの過程をしっかりとできてからこそできるかどうかが決まると思う。だから、普段「責任感もって」なんて簡単に自分は言うてしまうけれど、本当の意味で責任をとる心構えだったのか自問してしまう。結果がうまくいかないとき、何かのせいにしていないか、きちんとその結果を受け入れ、責任をとろうとするほど努力しているか。この問いに自らできちんと「はい。」と答えられる人に私はなりたいと強く思った。

3人の講師の方々には本当に深いお話を私たちに語ってくださった。それは今までの経験があったからこそできる、アドバイス、楽しさ、託して下さった願い等であったのと思う。その姿を真近で見てその熱を真近で体験して、自分もいつか誰かに笑いを含みながらも、誇りを持って人に人生を語れるような人になりたいと思った。本当に講師の方々のお姿は眩しく、話す内容は深くて底がなく、自分にとって素晴らしい時間だった。

2. 三菱商事訪問

(1)三菱商事ではまず、広報部ブランドコミュニケーションチームの寺本さんから、次に金属グループでグループ経営に関わるサポートをしている宮村さんよりお話を頂いた。



寺本さんからは用意して頂いた資料とともに会社の沿革から今のビジネスモデル、社会貢献活動などについて丁寧に説明して頂いた。

宮村さんは二高のOBであり、高校卒業後は大学に興味を感じていなかったものの新たな価値観を知るため、新しい広いところを求めて関東の大学に入学し、在学中にインターン等に積極的に参加し、この三菱商事に入社。入社後は日本からオーストラリアへ行き、資源の調達に関わる仕事をし、日本へ戻ってきて

資源等を売る仕事、そして今、グループ経営に関わる仕事をしているとのこと。

その三菱商事で行なっている仕事において共通するのは、対象は「人」であるということだそう。価値を見出すのは人、だからこそ事業は人に合わせて変化していかなければならない。「人」が儲かる場所を求めていくのと同じ原理である。ただし、商社である限り、生産者と消費者の中間者として両方を喜ばすのは難しい。だが、それは工夫によって変化する。どちらにもメリットを感じてもらえるように、何を求められているか考えていくことが大切なのである。それを分かるようになるためには、自分の価値基準をひとつにしないことが重要である。そのためにも自分の考えるもの以外に触れていかなければならない。近年はインターネット等によって良い意味で、世界は狭まりつつある。だからこそ、これを上手く利用して色々な考え方に触れていくと良いそう。また、その中間者として「人」と信頼関係をしっかり築いていくために大切なことは「約束を守る」ということ。例えどんなに小さいものだとしても、守ることが土台となる。その土台がしっかりあれば、役に立つ人へとになれる。これは価値を提供する側として、本当に大切なことであるそう。

次に、経営について。経営とは企業価値を高めることであるそう。よって答えは1つではない。最低限必要な知識を身につけ、それをどのように活かしていくか考えることが大切



だ。そして実際に次々に行動へ移していくことが経営のプロセスとなる。

また、この経営は各国の状況に合わせて進行しなければならない。勿論、決まったやり方はない。根回しをして、他者を利用し、多くの場面で効率化する、全ての行動で常に考えていなければならない。今は多くの別の商品に手を出しているので、全てをできる限りバランスよく保とうとしている。だから、全てに投資しているとリターンが甘いものも出て来るため、1つの業界のみに注目せず、いろいろなところにアンテナを立てなければならない。そうして、(これが儲かるかも?)とねらいをつけて事業を展開していくのだ。

オーストラリアでの仕事について。海外経験がなかったそうなので、海外で仕事をしたとき、また新たなものの考え方を知ったそうだ。海外で過ごすことで、日本の文化を客観的に見ることができ、今までの当たり前を見直すことができる。電車が当たり前のように時間通り来ること、治安が良いこと、水がきれいなこと等、それは様々である。こうして気付くことで価値観が広まるのだ。また、オーストラリアでの英語については、宮村さんは電話を取りたくないほど苦戦していたようだ。だが、使えるように努力しなければならない。でも、それは勉強だけでは足りなく、コミュニケーション能力も必要とされる。

実際に事業を展開していく上で必要なことについて。拠点を置く国というのは人口、インフラ、需要の主に主に3点から判断して攻めようと決めるそうだ。または他の日本企業が進出しにくいところ等。ただし、その判断をするのに必要な情報について言うと、現地の情報を掴んで会社に伝えるということが大切とのこと。

最近情報はメディアを通して瞬時に広まるだが、重要視されるのは、現地でしか知り得ない情報である。それをメディアに出る前に現地で取材してしっかり掴むことが、ビジネスチャンスへと繋がる。ハイリスクであるが、高い可能性を秘めているのだ。だが、もちろんその情報を得るのにも現地との繋がりが大切なので、「人」と「人」の信頼関係にも繋がる。



グループ経営をする方々の仕事をする様子について。その方々は指示に加え、人の頭を

考えさせて使うためにサポートをもする。そうすることで指示だけでは見えないことも見えるようになるという。だが、その本社などでグループ経営をする方々と現地で売買の中間者として働く方々との間に、意識の差があるのも事実だという。この点は課題であるそう。経営をする方々は現地の方々の意見等を 100 パーセント吸い上げるのは無理である。だが、その意識差を少しでも埋めるために、会議を開き、一年間どうやっていくか計画議論をするそうだ。

CSR 活動について。本質的な国際問題の解決のために、利益を求める企業は活動しているわけではないのでは、と疑問を宮村さんは投げかけていた。寺本さんからは今三菱商事で行なっている社会貢献活動について説明して頂いた。また、社員がその活動に参加することで他の部の人とも関わるので、社員の交流にもなっているそうだ。そして、社員のボランティアへの興味が高まり、意識の向上につながっているという。

高校生の私たちがすべきことについて。前に何度も重要視している信頼関係は友人関係も一緒である。みんなと同じ結果であることだけを求めているはいけない。自分だからできることとして役割を見つける。そうして、人の想像以上の価値を出そうと努力するべきだ。そうやって誰かに価値を自分に見出して貰えば、周囲の頑張っていない人だっけとも頑張ってくれるようになる。こうやって、自分でチャンスを作り出していくのだ。学生の内なら尚更である。一生懸命やりたいことをやってみる。黙っては何も始まらない。少しでも頑張ってみれば、サポートしてくれる人はたくさん出て来る。その人の手を借りてでもいいから、それをやり続けて、チャレンジとトライを繰り返せば、きっと自分のためになる。今は得な時期だから、やりたいことに挑戦していくべきだ。

それに加えて、プライドをどこに持つかに注目すること。本当のプライドは捨ててはいけない。この先、(嫌だな。)と思うときなんかいくらでもある。でも、そういうのは無視していいのだ。曲げたっていい。でも、本当のプライドだけは守らなければならない。

そして、最後に宮村さんが特に大学 3.4 年生での経験を踏まえ、やりたいことに挑戦し、おもしろいと思うことをやっていく楽しさを教えてくださった。また、小さいきっかけで周りは動き、新たなチャンスを生むのだと教えてくださった。

(2)宮村さんと寺本さんのお話を聞いて

宮村さんがおっしゃっていた、新たなより広い価値観を求めていく、その考え方に惹かれ、憧れを持った。自分も新たな価値観を求めて飛び回れるような人になりたいと思った。

ただ、そのためには目的を忘れず、やりたいと思うことをし続ける熱心さや信念のようなものが重要だと思えた。また、経営に関わる点について。私は、経営者、ないしはその業界を引っ張っていくリーダーのような人になりたいと思う。その上で、三菱商事でのお話を聞いて改めて、そのような人材となるためには、実際に現場で働いた経験、広い視野、多くの意見を聞いて効率よく取り入れる集約力などが重要だと思えた。それに加え、自らの仕事にプライドや熱意を持って、次の世界へと視点を変えていく力も大切だと思えた。また、宮村さんがおっしゃる、プライドをもつところについて。これは、本当に今後の仕事や努力の結果を左右すると思えた。それが本質を突くところであればあるほど、成功やよい成長に繋がると考えることができた。そして、寺本さんから説明して頂いた CSR 活動については社員にも社会にもよい影響を生み出せる、積極的に行われている活動として素晴らしいと思った。何より、拝見したその活動を紹介するブースでの雰囲気が高く、会社の在り方について考える良い機会にもなった。ただ、社会貢献は本質を突いた CSR 活動なのかという宮村さんの問う意味もよく理解できた。そのようなことにも問題意識を持つことはとても大切なのだと思う。

そして、最後に私たちに伝えてくださったことについて。今自分がしたいことはもっと社会を知るために色んなことところを見たいということだ。留学や県外の大学に行くなど、その方法はいくらでもある。そういうことに私はチャレンジしていきたい。だからこそそのための勉強や他にどんな手段があるか調べることなど、公言しながら取り組んで行きたい。そして、それに関する、小さなチャンスを1つずつ掴んで自分の一部にしていきたいと思う。

3.東京研修を終えて

私は最初、東京研修に参加するとは決めたもののあまり研修内容を理解することが出来ていなく、期待は薄かった。だが、実際にアポイントメントを大企業にとるという作業から緊張感が生まれ、今していることのすごさを実感するようになった。また、研修日が近づくにつれてディレクトフォースなどの活動内容を理解し、なんて魅力的な活動なんだとわくわくが止まらなくなっていた。そして、東京研修の二日間。本当にあっという間だった。これだけ頭をフルに使って人の話を全身で聴いた二日間は初めてだと思う。それくらい自分にとって濃いものだったのだ。その1つ1つの感動をここには全て書ききれないので、代表して、1.2 でまとめと感想を書いた。ただし、1.2 の中でも、講師の方々や三菱商事の方々のお話を全て書ききれず、本当に申し訳なく思う。だか、その書ききれなかったことは全て自分のこころの中に、メモや筆跡に確かに残っている。また、この研修に関わって下さった方々、この研修を運営するために様々な準備をして下さった先生方に本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。

改めまして、ディレクトフォースの講師の方々、三菱商事の方々、OBの方々、東大の方々、そして先生方、ありがとうございました。私はここでの学びをここで終わらすことなく、将来に繋げられるよう努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。